

木のある暮らし展

本質定めた営業を提案

古川ちいきの総合研究所

林業・木材産地の付

加価値創出を支援する

古川ちいきの総合研究

所(大阪市、古川大輔

社長)は3月29日、大

阪市内で「木のある暮

らし展2017」を開

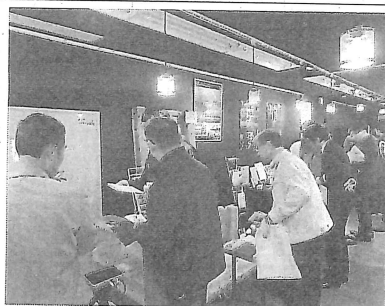
催。古川社長が「プレ

ミアム国産材で工務店

経営をプレミアム化す

る」の演題で講演し、

営業活動の切り口を語



地域産材活用への取り組みも紹介した

古川社長は、変化が起ころなかで本質を見

失わないこと、流行は繰り返されることを指摘。「修繕・リフォーム・リノベーション」といった言葉は、時代とともに少しずつ意味が変化してきたが、繰り返して使えるようにするという本質は変わっていない。プレミアムという言葉もナンバーワン、オンリーワンから変化してきたもので、各自の強みを自覚し発信することが必要になる。ま

た、洋室が普及した今、和室が改めて注目されている。変化が起り始めた時、先陣を切った1歩目に続く2歩目の動きが、大きな変化を生むために重要になる」と話した。

さらに、工務店の問題点の一つとして自由設計に傾くがために予算オーバーする例を取り上げた。施主が家を建てる時に注視するものとして、快適性や安全性、コストなど代表的な項目がある。これらに焦点を当てた家の基本型を3つぐらい準備し標準化することを解決策として紹介。さらに各工務店の強みを軸に、施主に合わせた細かい営業展開を考えてみてはどうかと提案した。